

年間教育計画

高島平中央総合病院

研修名		主催	開催日	研修内容
卒業後教育	プリセプター研修	看護部教育委員会	4月	プリセプター研修
	卒2研修		7月	救急法
			8月	卒2フォローアップ研修
現任教育	リーダーシップ研修	主任会	7月	リーダーシップとは？
	看護助手研修		11月	チームリーダーにどんな協力をしていますか？
			5月	個人情報保護法について
			7月	感染経路について
			9月	経管栄養についての知識 日常生活の援助
			11月	褥瘡のスキンケア
			6月	褥瘡のスキンケア
		看護部教育委員会	6月	嚥下困難患者の管理方法
	7月		輸液・シリンジポンプの使い方	
	9月		言語障害の理解とコミュニケーションの工夫	
	9月		言語障害の理解とコミュニケーションの工夫	
	11月		フットケアとアロマセラピーの効用 －看護の役割を担う効果と活用方法	
	12月		フットケアとアロマセラピーの効用 －看護の役割を担う効果と活用方法	
	12月		上部消化管内視鏡について	
	看護研究発表	看護研究委員会	10月	看護研究発表会
			3月	看護研究発表会
		記録委員会	5月	フォーカスチャートニング:基礎とフローチャートとの連動
			10月	フォーカスチャートニングと看護過程
			2月	好ましい表現・好ましくない表現
		医療安全委員会	7月	患者対応におけるリスクマネジメント
			2月	医療安全とは？
		サービス向上委員会	10月	接遇の重要性 社会人としての基本・挨拶対応・クレーム対応
		褥瘡対策委員会	10月	局所治療のガイドライン 褥瘡発生のメカニズム・圧迫ずれの排除・スキンケア・管理方法
			5月	褥瘡に使用する薬剤
		感染症対策委員会	6月	手洗い・MRSAについて
			9月	結核についての基礎知識
			11月	インフルエンザ

高島平中央総合病院新人研修年間計画表

開催月	研修テーマ	対象者	主催	講師名	研修のねらい	研修内容
3月	注射法	新人看護師 (経験問わず 全員)	看護部 教育委員会	看護部 教育委員	臨床実践において最も多く行われる業務に対し、学んだ知識を技術として身につけ自信を持って業務に取り組むことができるようにするため基礎知識の復習および体験を行う。また、患者の思いに共感できること施行時の説明など注射業務の一連のながれを理解してもらう。	(注射法講義) 皮内・皮下・筋肉注射 静脈注射・点滴静脈法 輸血法・中心静脈栄養法 (注射練習) 注射練習用の腕を使用する。 (注射体験) 採血・皮内注射・筋肉注射
	看護記録	新人看護師 (経験問わず 全員)	看護部 教育委員会	看護師長	当院の記録方式(フォーカスチャータリング)の基礎学習を行い現場で早急に対応できる知識を身につける。	講義法 看護記録の重要性・必要性 記入例・記入方法(基礎)
4月 2日間	入職研修 オリエンテーション	全職種新人	院内 教育委員会	院長・事務長 看護部長 医師・看護責任者 各フロア責任者	社会人としての心得を養うと共にIMGグループの一つである当院の組織理念・体制を知ることにより個人の果たすべき役割認識をもつ事ができる	院長・事務長・看護部長挨拶 各フロア責任者紹介 就業規則・医事課業務 組織体制、看護体制 個人情報保護法基礎知識 職員の心構え(講義法)
	接遇	全職種新人	サービス向上 委員会	サービス向上 委員	社会人としての基本的マナーを身につけ、なおかつ医療人としてサービスの本質を理解し業務に反映させることができるように接遇の第一段階の講義として挨拶と電話対応を学ぶ。	挨拶 (笑顔作り・声の大きさ・目線 会釈の角度・表現方法) 電話の受け方 (内線・外線) 当院での呼び名規定の説明
5月	バイタルサイン	新人看護師 (経験問わず 全員)	看護部 教育委員会	看護部 教育委員	正しい測定方法で実施できるバイタルサインの観察によって緊急度の判断ができ、迅速な対応へ繋がられる。	研修ファイルでの講義 新人チェックリストに沿った知識・技術習得のポイント説明 基礎知識の確認 例題を通して現段階での異常原因の発想力を自己認識して貰う。
	ME機器取扱い	新人看護師 (経験問わず 全員)	看護部 教育委員会	臨床工学科技師 業者	臨床現場において最も多く使用されるME機器を中心に正しい使用方法を学ぶことによりリスク回避につなげる動機づけを養う。使用時チェックリスト表活用方法を実際の機器と照らし合わせチェックしてみることで必要性を知る。	基本的ME機器の構造説明 取り扱い方法説明 誤作動発生時の実際 業者による現場で必要なメンテナンスの必要性説明 院内規定使用時チェックリストのチェックポイント説明
6月	心電図(1) 心電図(2)	新人看護師 (経験問わず 全員)	看護部 教育委員会	看護師長	各科ともに基本的循環器の基礎知識を身につけることで正しく安全な患者管理が遂行できるようにする。	循環器疾患の概要 臨床現場でのモニタリングの必要性の判断 正しい装着と管理方法 画面波形・HRの落とし穴 正常波形と異常波形
	中間評価 チェックリスト	新人看護師 (経験問わず 全員)	看護部 教育委員会	看護部 教育委員	基礎看護技術の習得における中間評価をチェックリストに沿って振り返ることで自分自身の現在の状態を確認することができる。改めて評価の仕方を指導されることによりチェックリスト使用方法が理解でき自己成長記録としての意味づけが再認識される。	看護技術チェックリスト持参 グループに振り分け 2名ずつの教育委員を配置し 口頭と記述された内容を 対比させ今後の課題を見出す 援助者となる。 評価に対しての査定はしてはならない。

高島平中央総合病院新人研修年間計画表

開催月	研修テーマ	対象者	主催	講師名	研修のねらい	研修内容
7月	救急法	新人看護師 (経験問わず 全員)	看護部 教育委員会	看護部 教育委員	入職し4ヶ月が経過し各部署で緊急時の場面に遭遇したスタッフ まだ、遭遇しないスタッフもいる。 さまざまではあるが入院直後は すべての患者が急性期の病態に あり患者の状態変化に戸惑う 体験は誰もがしている。 緊急時の処置のみならず、緊急 連絡体制、先輩と新人の動き 家族への関わり方を教育委員の 演習により疑似体験してもらう。	事前にシナリオ配布 演習見学 演習後にディスカッション 実際の病室のスペースでの 緊急時処置をイメージする為 病室にて物品配置と医療者 の動きのイメージトレーニング レポート提出 各フロア長にフィードバック
	トランス	新人看護師 (経験問わず 全員)	看護部 教育委員会	看護部 教育委員 院内PT	安全・安楽・安心を大前提とした 患者移動が確実にできること でリスク回避にも繋がる動機づけと 方法を身につける。	ベットからの車いす乗車 車いすからベットへの移動 全介助と部分介助法 ストレッチャー移動
9月	フォローアップ 研修	新人看護師 (経験問わず 全員)	看護部 教育委員会	看護部 教育委員	入職し半年が経過。現実が見え 良くも悪くも自分の方向性に 戸惑う時期であるため、現段階 での同期生の心の思いを 語り合ったりすることで他者を 通して自分を見つめ直す機会 とする。 また、夏休み明けで心身ともに ペースが落ちる時期でもあり 研修を行うことで気持ちにメリ ハリを持たせる。	主催年によって工夫。 講義法・スピーチ法 グループワーク法・記述法 各フロア長にフィードバック
	呼吸シリーズ (1回目)	新人看護師 (経験問わず 全員)	看護部 教育委員会	看護部 教育委員	臨床現場で頻繁に指示される 医療処置を行う看護師として 準備や使用方法だけでなく個々 の状態に合わせ確実な施行 結果を得るための知識を学ぶ	インスピロン・ネブライザーの 基礎的知識を解剖生理を 振り返りながら理解する。 効果的な使用方法を実際の 体験談から学ばせ安全で 効果的な使用方法を身に つけてもらう。
	呼吸シリーズ (2回目)	新人看護師 (経験問わず 全員)	看護部 教育委員会	外勤講師	専任講師による呼吸理学療法 の基礎を学ぶ。目的と施行時の 呼吸器系への効果をイメージし 正しい誘導方法を学ぶ。 実際の施行方法を施行者側と 患者側の双方を体験すること により患者の思いに配慮し協力的 な関係作りができる。	(講義内容) 動作時呼吸法の習得 術後呼吸器合併症のメカニズム 臥床の呼吸への影響 手術部位と合併症 排痰を促す原理とその方法 腹臥位管理 (演習法) 処置ベットに患者・施行者の 両方を体験してもらい力の 入れ方や部位などを感覚と して身につける。

高島平中央総合病院新人研修年間計画表

開催月	研修テーマ	対象者	主催	講師名	研修のねらい	研修内容
10月	在宅看護	新人看護師 (経験問わず 全員)	看護部 教育委員会	訪問看護 所長	住み慣れた地域、住み慣れた 自宅で生活できることを誰もが 望む事である。生活の場である 療養については在学中の臨地 実習として学び体験している。 “入院した時から在宅の始まり” 院内看護が在宅療養に及ぼす 影響を理解し継続看護の 重要性を学ぶことができる。	(講義内容) 介護保険制度の現状と改正 されるべき問題を実際の 体験として講義。 在宅看護の有用性について
11月	看護過程 (1・2) 2日間	新人看護師 (経験問わず 全員)	看護部 教育委員会	看護師長	入職当初は行った看護行為を 単発的に記録する時期であった。 この時期は受け持ち患者を 少しずつ持つようになっていく。 卒後一年間の記録達成目標は 院内スタンダード計画用紙を 活用し受け持ち患者の看護過程 の展開ができる所までを考えて いる。研修のねらいとして 個人情報を加味し看護に必要 な情報を理解し、情報収集を行い そこから看護上の問題を抽出 させる。 スタンダード計画を活用し個々 の患者の問題として捉え個別性 にあった目標を設定できる。	(講義内容) 入院サマリー 1. 看護過程の概要を理解 2. 情報のアセスメントと 問題点の抽出 各項目の必要性 (事例から得た情報から看護計画 にあがる問題点を考えさせる) スタンダード計画用紙 1. 優先順位の決定 2. 患者に合った目標に修正 事例による練習 ～ の方法を事例を活用し 考えて書く練習を行う。
12月	死後のケア	新人看護師 (経験問わず 全員)	看護部 教育委員会	看護師長	看護現場において臨終の時に 立ち会うことは避けられない。 誰もが患者の看取りを一度は 体験している。 宗教の信仰の如何に関わらず その方が生きてきた人生を尊び 最後の看護の場面であることを 理解する。 また、家族への関わりの重要性 も理解する。	(講義内容) 看取り看護の体験からの学び 近年の葬儀や納骨方法に 関する考え方の変化から 学ぶ死。 病院看護職に求められるもの